

反復性鼻出血に四物湯を含む漢方薬が奏効した男児の一例



小林 千春 先生

小金井つかめクリニック/ナビタスクリニック川崎

2007年 東京大学医学部 卒業
東京大学医学部附属病院、慶應義塾大学大学院、国立がん研究センター東病院で血液腫瘍の臨床と研究に従事。
2014年 ナビタスクリニック川崎
2015年 北里大学東洋医学総合研究所で漢方研修
2023年 小金井つかめクリニックで漢方外来を併任

はじめに

鼻出血は血小板減少・凝固因子欠乏や鼻腔・副鼻腔腫瘍、感染症に伴う出血傾向などの重篤疾患を除くと、特発性のことが多い。アレルギー性鼻炎のある小児は、鼻が痒くていじるために鼻出血が生じやすくなる。治療は圧迫止血法による対症療法だが、出血が止まらない場合は耳鼻咽喉科の受診が必要となるため、患児にとって負担になる。

症 例

症 例：9歳 男児。

主 訴：鼻出血が多い。

既往歴：アレルギー性鼻炎、発達障害（言語発達遅滞）。

現病歴：生来健康な男児である。言語発達遅滞やこだわりの強さなどで2歳時より療育に通っていた。低身長のため、7歳時に成長クリニックで精査を受けたが、生理的なものとされた。アレルギー性鼻炎に対して抗アレルギー薬の内服と舌下免疫療法を開始した。鼻炎症状は軽減したが、鼻出血を繰り返し、情緒不安定も伴うため、漢方治療を希望して9歳時に当院を受診した。

初診時所見／東洋医学的所見：図1に示す。

臨床経過（図2）：虚証として小建中湯から治療を開始した。粉薬は苦手だが錠剤は飲めること

から、止血作用と情緒の安定化を期待して四物湯の錠剤（9錠/日）を併用した。また鼻出血時には黄連解毒湯の錠剤（3錠/回）を頓用としたところ、次第に鼻出血の頻度は減少し、1人でトイレに行けるようになるなど精神状態も改善してきた。

図1 症例 9歳 男児

主 訴

鼻出血が多い。

身体所見

身長 119.0cm (-2SD)、
体重 21.0kg、
肥満度 3.1%（標準：-20%～20%未満）。

東洋医学的所見

小柄な体格、口唇の乾燥あり、寒がり、小食、食事を食べるのに時間がかかる、不安やこだわりが強い。

脈候：やや浮・やや弦

舌候：淡紅、薄白苔

腹候：くすぐったがる、腹直筋緊張（+）

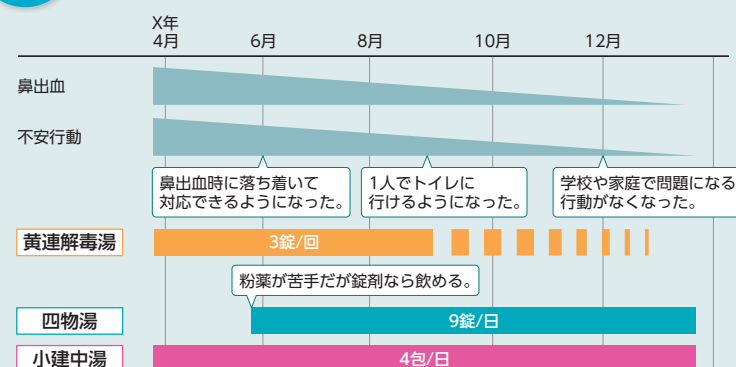
合併症

アレルギー性鼻炎、発達障害（言語発達遅滞）。

検査所見

TSH 4.497 μ IU/mL（基準値 0.61～4.23）、
freeT4 1.24 ng/dL、貧血なし、凝固異常なし。

図2 臨床経過



考察

鼻出血に対する漢方処方

鼻出血に対する漢方処方について、藤平は実証には麻黄湯、三黄瀉心湯、桂枝茯苓丸、虚証には小建中湯、芍薬膠艾湯、黄土湯などを挙げている¹⁾。

鼻出血に対する漢方処方(実証向け)(図3)

麻黄湯について、藤平は「風邪の時の鼻出血に用いるが、必ずしも風邪を引いていなくても良い」と述べている。三黄瀉心湯は速効性があるため、戦場での外傷に振り出しで用いられた。黄連解毒湯は、実熱性の出血に用いられるが、苦味を避けるために錠剤やカプセル剤も考慮される。桂枝茯苓丸は瘀血に伴う鼻出血に用いられる。

図3 鼻出血に対する漢方処方(実証向け)

- **麻黄湯**『傷寒論』：傷寒、脈浮緊、汗を発せざるに因りて衄を致す者は、麻黄湯之を主る。
- **三黄瀉心湯**『金匱要略』：心気不足、吐血、衄血するは、瀉心湯之を主る。
※戦場での外傷に振り出しで用いられた。
- **黄連解毒湯**『外台秘要』：実熱性の出血。苦みを避けるために錠剤やカプセル剤も考慮。
- **桂枝茯苓丸**『金匱要略』：血止まらざる所以の者は、其の癥去らざるが故なり。当に其の癥を下すべし。桂枝茯苓丸之を主る。

図4 鼻出血に対する漢方処方(虚証向け)

- **脾の統血作用**：気の固摂が保たれて血が脈外に漏れない
- **脾不統血**を治療する代表方剤：**加味帰脾湯**
※免疫性血小板減少症などの血小板減少に使用
- **六君子湯**：消化管出血に奏効例²⁾
- **提肛散(補中益気湯加減方)**：脱肛・痔出血に奏効例³⁾
- **小建中湯**『金匱要略』血痺虚勞病篇：虚勞、裏急、衄血、腹中痛み、夢に失精し、四肢痠痛、手足煩熱、咽乾口燥するは、小建中湯之を主る。

鼻出血に対する漢方処方(虚証向け)(図4)

加味帰脾湯は脾不統血を治療する代表方剤である。六君子湯が消化管出血に奏効した例や²⁾、補中益気湯加減の提肛散が脱肛や痔出血に奏効した例³⁾が報告されている。また、小建中湯は『金匱要略』に衄血に用いる記載がある。

精神症状に対する四物湯

田原らは、四物湯は血虚を治療することで集中力・判断力を回復し、抑うつ・不安などの精神状態を改善する可能性があることから、起立性調節障害などに有効と述べている⁴⁾。

また、神田橋処方(桂枝加芍薬湯と四物湯の合方)はPTSDなどのフラッシュバックに有効とされている⁵⁾。痩せ型で過敏な場合は、桂枝加芍薬湯を小建中湯に変方することもある。

結語

本症例は、小建中湯と四物湯の併用が鼻出血の軽減や精神状態の安定化に有用であった。こだわりの強い小児では、錠剤を含めた様々な剤形を提案すると漢方薬を受け入れやすくなる。

【参考文献】

- 1) 藤平 健: 日東医誌 29: 71-76, 1978
- 2) 山崎麻由子 ほか: 漢方の臨床 70: 417-424, 2023
- 3) 青木ゆかり ほか: 日東医誌 69: 287-290, 2018
- 4) 田原英一 ほか: 日東医誌 71: 94-101, 2020
- 5) 神田橋條治: 精神科講義, 創元社, 2012

Discussion

木村：四物湯と黄連解毒湯は温清飲になりますが、別々に投与しているのはなぜでしょうか。

小林：本症例は粉薬の服用が苦手で錠剤を希望されたことと、四物湯と黄連解毒湯とに分けるとその時々状態に応じて錠数を調整できるというメリットがあると考えました。

木村：脾の統血作用についてお話をいただきました。衄に用いる処方として小建中湯を使用されていますが、他の処方についてはいかがでしょうか。

小林：虚証の出血の場合は、脾の統血作用に着目して、補脾剤である六君子湯、補中益気湯や加味帰脾湯などを検討する必要もあると思います。

木村：補脾剤と四物湯というと気血両虚の病態とも見ることができます。十全大補湯との鑑別についてはいかがでしょうか。

小林：本症例は小児ということで、腹直筋の緊張も目立っていたので、建中湯類は外せないと思いました。